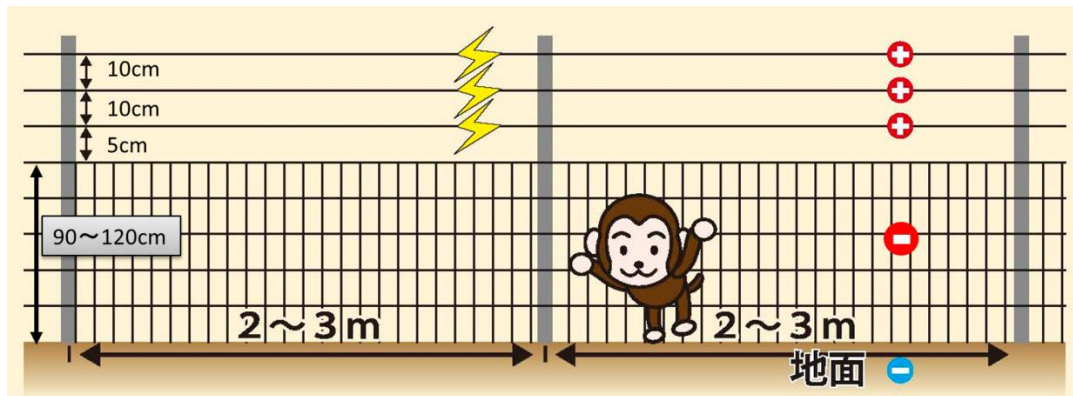


ニホンザルの効果的な被害対策

島根県には、約 50 群れ、1,800 頭のサルが生息しています。サルは頭が良く運動能力も高いので、対策は難しいとあきらめムードになってしまいがちです。被害対策のポイントを知って、サルに立ち向かいましょう。

サルは 30~50 頭の群れで生活し、10~20k m² の定まった行動域で、日中に採食と移動を繰り返しています。そのため、同じ群れが何度も同じ場所に出没して加害します。被害は、トウモロコシ、ダイコンなどの野菜やカキ、クリなどの果樹に多く発生します。集落の田畑にくず野菜や放棄されたカキなどがあると誘引物となってサルを引き寄せてしまいます。とくに、イネのヒコバエは人が気づかない最大の誘引物です。そのため、これらの誘引物をなくすことが大事です。また、サルの追い払いをしないと人慣れが進んで人を恐れなくなります。そのため、サルを見かけたら必ず追い払って、人は怖いと思わせることが必要です。追い払いは、ロケット花火や電動ガンなどを使って、複数の人で行うと効果が高くなります。さらに、山際の被害に遭いやすい畑などには、電気柵を設置します。サル対策用の電気柵は、ワイヤーメッシュの上部に 3 本の電線を張った構造にすると侵入を防止できます (図)。なお、これらの被害対策は、集落一体となって、みんなで取り組むことが重要です。

(島根県中山間地域研究センター 鳥獣対策科 澤田誠吾)



サル用の電気柵 (ワイヤーメッシュ+電線 3 本)